平成15年度　見学会に参加して

本　田　秋　男*

新潟応用地質研究会・地盤工学会北陸支部・日本技術士会北陸支部の共催による、平成15年度見学会に参加させていただいた。

今回の見学会は、上越の谷浜地区公園敷地造成工事現場、八ッ場トンネル工事現場、浅間山周辺の巡検と広範囲に渡る１泊２日の見学会であった。参加前から今回の見学会は「大規模」或いは「大型」がキーワードとなる見学会なのかなと、思いつつ参加させていただいた。

最初の見学地である上越の谷浜地区公園敷地造成工事現場に到着し、上越市土地開発公社の奥田係長より、ビデオによる事業の説明、その後実際に現場での説明を受けた。事業は、公園整備のために山を切り崩し、残土をベルトコンベアにて海上に搬出し、土運船にて海路直江津港へと運搬するものであるが、まさに大規模とゆうしかない。土工規模が大きい、重機が大きい、ダンプトラックが大きい、大きなものしかないように思える。私は、この現場に若干係わっている人間であるが、何度見てもこの重機の大きさには慣れることが無く驚かされる。

現地にて奥田係長から、「これだけの大規模建設工事であることから、地域周辺住民の方々に対し、騒音・振動・粉塵等の環境問題につては考慮し様々な対策を講じているが、やりすぎとは全然思わない」、「これほどの大型機械、設備を使用しても、最終的な点検や操作は人間が行い、やはり要は人間である」などの言葉を聞き、大型建設工事と人間或いは環境との関係について蘊蓄の多いセリフを言われるものだと考えさせられた。

次に上信越自動車道を走り抜け、群馬県吾妻町の八ッ場トンネルへと向かった。八ッ場トンネルは、八ッ場ダム建設に伴いルート変更がなされる、ＪＲ吾妻線の付替線中、最長のトンネルである。八ッ場トンネル建設現場を含めた八ッ場ダム建設は、本日宿泊地である川原湯温泉の水没を含めた大きな問題を伴いながら計画が進められてきた大型建設プロジェクトであり、大型建設プロジェクトと環境の関係について深く考えさせられる見学地といえる。

八ッ場トンネル建設現場にて、工事を施工されている、清水建設の方から現場の説明を受ける。特に、当現場にて稼働するＴＢＭは、現在、日本で稼働中のＴＢＭでは最大級のマシンであることを説明され、実際に切羽にて発進準備万端となったＴＢＭを見させていただき、そのスケールに圧倒された。

また、見学地坑口に向かう途中の交通規制の実施など、地域全体が、大型建設プロジェクトの真っ只中にいるのだなと実感させられた。

*日特建設株式会社

宿泊は、川原湯温泉柏屋旅館。ここは、八ッ場ダムの建設により水没することが決定している。宿に落ち着き、懇親会の前にちょっと一風呂と、外湯の露天風呂へ出かけた。ここ川原湯温泉は、源頼朝に縁起を持つ、開湯900年の温泉地である。長い歴史を持つ、自然からの贈り物である温泉が、自然災害から人間を守るためのダム建設により消滅してしまう。この矛盾に思いを巡らしつつ、お湯に身を浸した。

見学会２日目。川島会員の案内により、天明三年・浅間火山噴火災害の痕跡をたどる巡検である。天明三年・浅間火山噴火災害の研究を長年に渡り続けてこられた川島会員が現地に同行され、説明されるとあり、非常に楽しみにしていた巡検である。

事前に川島会員作成による、現地見学ガイドが配布され、その資料に従い、浅間山の火口付近から徐々に災害が及んだ遠方地へと巡っていく行程であった。見学箇所毎に川島会員による懇切丁寧な説明があり、川島会員抜きで巡検していてはとても気づかない内容にまで説明が及んだ。また、ガイドや文献のみでは理解できない位置関係や距離感などが実際に現地を詳細に巡検することにより徐々に理解することが出来た。

浅間火山噴火の影響範囲の広さ、そのスピード、被害の悲惨さ、また浅間火山噴火痕跡のリアリティーなどが十分に実感できた巡検であった。

巡検の最後に川島会員が、火山の噴火などの災害を人間の力で止めることは不可能である。しかしながら、過去の災害を研究し、被害を最小限に食い止めるように備えることは可能である。にもかかわらず、現在も、過去に被害があったところには別荘が建ち並び、土石流が流下した位置に民家が多数存在する。人間は学習しないのであろうか？との内容の話をされた。私も同感である。

今回の見学会を通じ、様々な場面で、「自然（地球）の偉大さと人間の小ささ」、「大型建設プロジェクトと環境（自然・居住）の関係」等と、更にそのことに係わっていく、「建設会社社員であり自然科学を志す一個人としての自分」との矛盾など、様々なことを深く考える時間を持つことが出来た。こういった機会を与えていただいたことに対し、各見学地の御担当各位、他の参加者の方々、そして幹事の方々に深謝致します。